

## 2019年度 重点領域研究助成費 中間報告書

2020年3月31日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	教授	氏名	坂野 純子
研究課題	岡山の自然資源を活用した多世代交流拠点の創生：キャンパス内緑地における自然教育プログラムの開発（平成31年度～令和2年度）					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	坂野純子	保健福祉・教授	精神保健	総括	
	分担者	難波久美子	デザイン学部・教授	天然素材デザイン	プログラム開発	
		沖本克子	保健福祉学部・教授	小児看護学	プログラム開発	
		関根紳太郎	保健福祉学部・教授	比較文化	プログラム開発	
		名越恵美	保健福祉学部・准教授	がん看護学	プログラム開発	
		石井裕	情報工学部・准教授	身体的コミュニケーション	プログラム開発	
		エリック・デスマレス	保健福祉学部・講師	英語教育	プログラム開発	
		澤田陽一	保健福祉学部・助教	認知心理学	プログラム評価	
		島和宏	デザイン学部・助教	建築計画	環境デザイン	
渡辺富夫	本部・副学長	身体的コミュニケーション	プログラム開発			
初年度の成果	<p>【目的】 スウェーデン農業科学大学のパトリックグラン教授と共同研究として、本年度は子育て中の市民と学生を対象とした自然を活用した教育プログラムを開発すること。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>岡山県への政策提言（資料1）</li> <li>NBR（Nature Based Rehabilitation）を参考にしたプログラム開発（資料2） 本年度は主として未就学児童と保護者および本学学生が自然に親しみ交流することを主眼とする「自然を感じるプログラムを企画し、実施した。」 <ol style="list-style-type: none"> <li>季節のリーズづくり（担当 難波） 参加者 23名（親子 17名、教職員3名、学生2名、見学1名）考察：図書館エントランススペースが実施会場として効果的であった（外との視覚的繋がり）。キャンパスで各自採集することにより、つくる楽しさや自然を感じるが増大された。</li> <li>人と人がつながるコンサート2019「みんなで桃太郎」（担当 坂野）（資料3） 出演者 70名（親子8名 学生40名、音楽ボランティア20名、教員2名） 来場者 約200名（出演者を含む）考察：創作劇「桃太郎」を乳幼児、保育園児、学生、中高年の市民が世代を超えて一緒に舞台を作り上げる経験ができた。世代を超えて一つの作品を作り上げるという経験は、地元への関心や愛着を高める効果が期待できる。</li> <li>歌で感じる日本の四季（担当 坂野）参加者：50名（親子27名、学生9名、音楽ボランティア13名、教員1名）考察：来場者の参加度は高く、学生からも大変好評であった。一方、子どもの年齢層が乳幼児から小学生までと幅広かったため、年代を考慮した構成をする必要がある。</li> <li>サウンドウォークは新型コロナ感染リスク回避のため中止</li> </ol> </li> </ol>					

※ 次ページに続く

<p>調査研究の進捗状況と今後の推進方策</p>	<p>【来年度以降の課題】</p> <p>自然を感じるプロジェクトは引き続き継続する。さらに、行政と連携して多様な市民を対象とした「自然・防災・交流プログラム」の開発を行う。</p> <p>1) 自然を感じるプログラム（継続）</p> <p>2) 自然・防災・サバイバルワークショップ（新規）</p> <p>真備の被災をきっかけに、生態系や自然環境のもつ減災・防災機能をあらためて見直すために今後の震災復興の在り方について、多様なステークホルダーが一同に集まり、情報の共有と議論の場。</p> <p>3) 自然環境を生かした NBR ガーデンの設計（新規）、スウェーデン農業科学大学と協同</p> <p>4) 自然を感じる・味わうカフェ</p> <p>近隣の自然への関心を持ってもらうために、自生する野草、ハーブを取り入れたメニューの開発とそれを味わう拠点づくりをおこなう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>これらを通じてストレス、生きづらさとともに生きる多様な市民が自然のなかでリカバリーする「拠点」の創生のモデルを模索・提案をめざす。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>9月 岡山県庁でプレゼンテーション</p> <p>12月 岡山県庁で展示</p>